

拝啓 時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

このたびは、三島駅南口東街区再開発を考える「市民シンポジウム」にお招きいただきまして、誠にありがとうございます。8月6日に三島駅南口の整備を考える市民の会の渡辺代表様からご案内が届きましたが、当日は出席を差し控えさせていただきます。代わりに書面にて、私の考えを申し上げます。

まずは、貴会をはじめ、NPO法人グラウンドワーク三島など市民団体の皆様により、「三島駅南口東街区再開発を考える『市民シンポジウム』」が開催されますことにお祝い申し上げます。

主催者の皆様は十分に御存知のとおり、三島駅南口東街区再開発事業は、三島市土地開発公社が平成9年に国鉄清算事業団から用地の払い下げを受けて以来、駐車場として暫定利用をしております。

今から遡ること約7年前には、ようやくこの事業に参画を希望する事業者が現われて計画ができ、平成23年の市議会2月定例会で予算の議決を頂くことができました。しかしながら、東日本大震災の影響で事業者が撤退し、計画は白紙となる大変苦しい思いをしました。

そこから新たに、NPO法人など市内の各種団体の皆様からご意見を伺い、市議会議員の皆様への説明会やパブリックコメントの実施を経て作り上げたのが、現在の三島駅南口東街区再開発事業のもととなっている三島駅周辺グランドデザインです。平成24年に策定して以降、この構想に基づき、「健康・医療産業などを導入したスマートウエルネスシティ」を実現するため、市民説明会等を重ねながら、東街区に市民の健康づくりや地域経済の活性化につなげ、移住・定住が生み出すにぎわいの拠点をつくるこのプロジェクトを進めて参りました。ようやく昨年11月に事業協力者の募集を行うことができ、有識者による選考により今年4月に最優秀提案者の決定を発表した次第であります。

本日このようなシンポジウムが開催されるということは、この三島駅南口東街区再開発事業への期待の大きさの表れと受け止めております。これまでも地方自治の原則に則り、また、法令を遵守し本事業を推進して参りました。今後、本市も少子高齢社会、人口減少に直面しますので、10年、20年、30年とこれまで市民の皆様とともに築いてきた発展が続くためには、さらなる雇用の創出、まちなかへの居住誘導を図る必要があります。多くの皆様も駅前の再開発事業は必要と考えていらっしゃるでしょう。しかし、これを実現するには民間活力を採用しなければなりません。20余年待ってようやく事業者が現れたこの好機を逃すわけには参りません。この機会を逃せば、また何十年と駅前の一等地が未利用のまま、厳しい社会情勢に翻弄される未来が待っています。

今こそ、三島の可能性を見込んで応募し、選ばれた事業者と共に、市民説明会を開催し、皆様からご意見やご要望を頂戴しながら、施設計画、事業計画を検討するときです。今後、市民の皆様からご意見やご要望を伺う機会を、三島市として積極的に設けて参りますので、今回のご依頼頂いた「市民シンポジウム」の出席につきましては差し控えさせていただきます。

敬具

平成30年8月10日

三島駅南口の整備を考える市民の会
代表 渡辺 豊博 様

三島市長

豊岡 武士